

例 言

1. 本書は宅地造成工事に伴う「菅谷・村東遺跡第6次調査」の埋蔵文化財発掘調査報告書である（高崎市文化財調査報告書第455集）。
2. 本遺跡は、群馬県高崎市菅谷町字村東20番地47に所在している。
3. 本調査及び整理作業は、土地所有者（群馬セキスイハイム株式会社）・高崎市教育委員会・株式会社飯塚組による三者協定を締結し、高崎市教育委員会監督のもと清水 豊の指導を受け実施した。
4. 発掘調査及び整理作業を経て報告書刊行に至るまでの経費は、土地所有者に負担していただいた。
5. 発掘調査は、藤田 登（株式会社飯塚組）が担当し、光波測量（平面測量）・空中写真撮影は有限会社天田安平商店が行った。
6. 発掘調査と整理作業は、令和2年6月22日から令和2年10月31日までの期間で実施した。
7. 本遺跡は高崎市教育委員会遺跡番号の「797」である。
8. 本書の執筆は、Ⅰを滝澤 匡（高崎市教育委員会）、ⅡからⅤ及び編集を藤田が行った。
9. 本書に関わる資料は高崎市教育委員会が保管している。
10. 発掘調査・整理作業に携わった方々は以下の通りである。

【発掘調査】青木 進 青木洋子 石倉 誠 金塚 寛 桑原初男 高橋 準

角田宇三郎 仲野正人 藤井常夫 水出礼子 森田隆昭

【整理作業】青木洋子 藤田明美 水出礼子

11. 発掘調査の実施及び報告書の刊行にあたっては、下記の機関・諸氏にご協力を賜った事に対し、記して感謝の意を表します。（敬称略・順不同）

南雲博文 渡邊 理 群馬セキスイハイム株式会社

高崎市教育委員会 関東建設工業

凡 例

1. 挿図中の北方位は座標北を、断面図の水準値は海拔標高を示す。座標は世界測地系を用いている。
2. 各遺構の略称は、竪穴建物跡：SI、土坑：SK、ピット：SP、溝：SDとした。
3. 挿図の第1図は、高崎市発行1/2,500『高崎市都市計画基本図』、第2図は国土地理院発行1/25,000『前橋』・『下室田』の一部を引用し加筆した。なお、第2図の遺跡分布図は『菅谷遺跡群Ⅰ』（田辺2015）を参照した。
4. 基本層序の火山噴出物の呼称は以下の略号を用いる。
As - B：浅間B軽石（天仁元年：1108降下）、As - C：浅間C軽石（3世紀後半降下）
5. 基本土層、遺構、土器等の色調観察は、『新版 標準土色帖』（農林水産技術会議事務局 財団法人日本色彩研究所監修 2007年版）による。
6. 全体図（遺構分布図）、個別遺構図の縮尺は1/60、1/40とし挿図中にスケールを付した。遺物実測図の縮尺は1/3とし、挿図中にスケールを付した。
7. 計測表や観察表における計測値は、残存値を（ ）、推定値を[]で記した。

目 次

例言・凡例

目次・図版目次・表目次・写真図版目次

I	調査に至る経緯	1
II	地理的環境と歴史的背景	2
	1. 地理的環境	2
	2. 歴史的背景	2
III	調査の方法・経過・基本層序	5
	1. 調査の方法	5
	2. 調査の経過	6
	3. 基本層序	6
IV	調査の結果	6
	1. 遺跡の概要	6
	2. 検出された遺構と遺物	11
	上面 古代期（奈良～平安）	
	A：竪穴建物跡（SI）	11
	B：土坑（SK）	12
	C：ピット（SP）	12
	D：溝状遺構（SD）	12
	E：その他（遺構外出土）	12
	下面 縄文期（縄文時代中期末葉～後期初頭・古墳）	
	B：土坑（SK）	12
	C：ピット（SP）	13
V	まとめ	13

写真図版
報告書抄録
奥付

図版目次

第1図	調査区の位置	1	第9図	土器集中・SD-01・SK-01～04	17
第2図	周辺の遺跡	3	第10図	SP-01～14	18
第3図	基本層序	7	第11図	出土遺物(1)	19
第4図	菅谷・村東遺跡調査区域図	8	第12図	出土遺物(2)	20
第5図	1区遺構配置図	9	第13図	出土遺物(3)	21
第6図	2区遺構配置図	10	第14図	出土遺物(4)	22
第7図	SI-01・03	15	第15図	出土遺物(5)	23
第8図	SI-02・SI-04	16	第16図	出土遺物(6)	24

表目次

第1表	古代の主な周辺の遺跡	5	第4表	遺物観察表(1)	25
第2表	土坑・溝計測表	14	第5表	遺物観察表(2)	26
第3表	ピット計測表	14			

写真図版目次

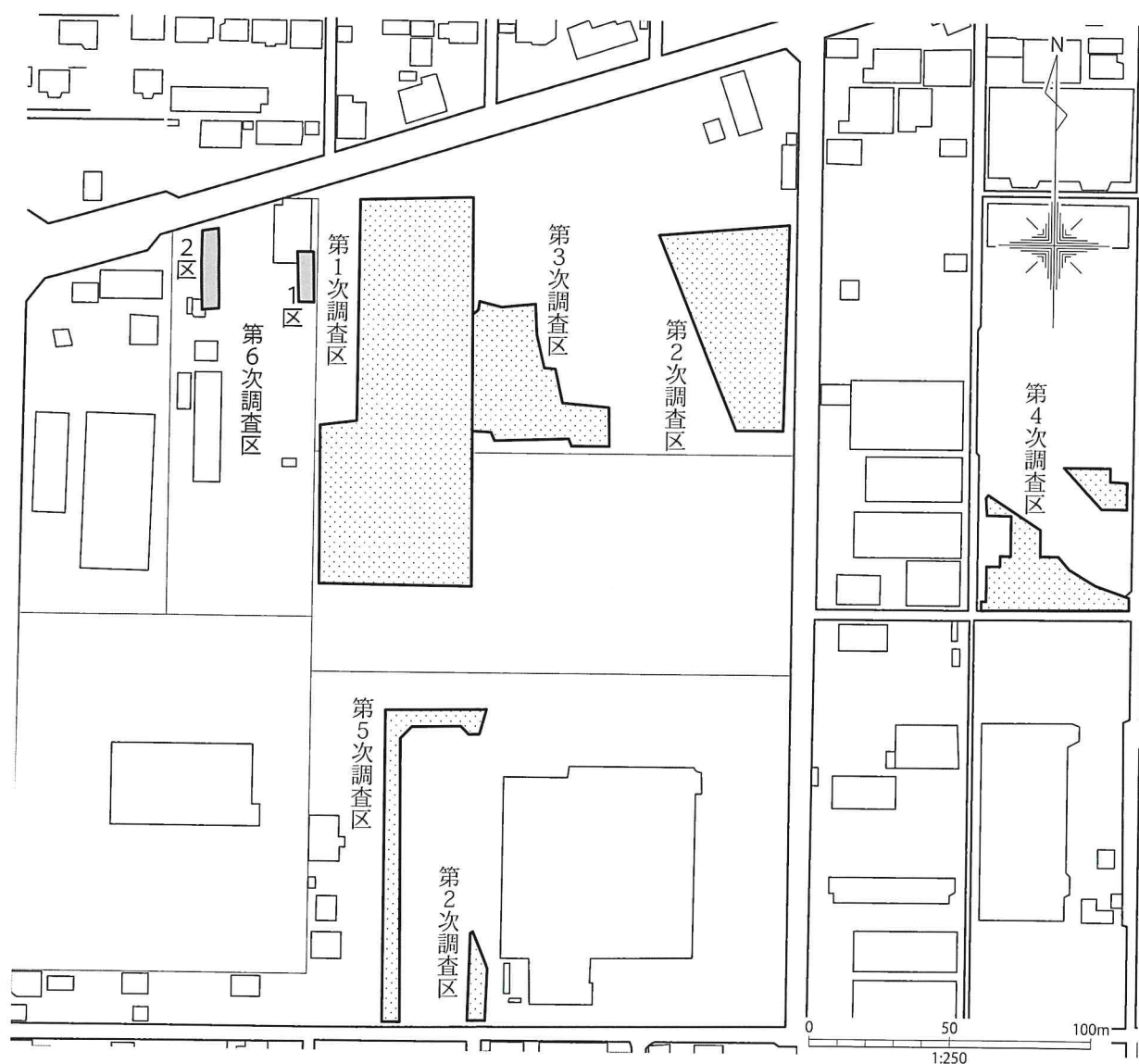
P L 1	遺跡遠景・1区・2区上空	P L 5	SI-01・SI-03出土遺物(1区)
P L 2	SI-01・SI-02・SI-03・SI-04・ピット群	P L 6	SI-02出土遺物①(2区)
P L 3	SI-03・SI-04・SK-01～04	P L 7	SI-02出土遺物②・SI-04出土遺物(2区)
P L 4	SD-01・SI-02・土器集中・ピット群	P L 8	竪穴建物・土坑・ピット・溝・遺構外出土遺物

I 調査に至る経緯

令和2年1月下旬、事業者である群馬セキスイハイム株式会社から、高崎市菅谷町において計画している宅地造成工事に先立つ埋蔵文化財の照会が市教育委員会文化財保護課（以下、市教委と略）にあった。該当地は周知の埋蔵文化財包蔵地に該当していなかったが、東側に隣接している菅谷村東遺跡第1次～第4次調査において古代～中世の集落遺跡が確認されているため、事業者に試掘調査の協力を依頼した。

令和2年4月10日、市教委に埋蔵文化財確認調査申請書が提出され、令和2年4月23日に試掘調査を実施した。その結果、古代の竪穴建物等を確認した。この結果をもとに事業者と市教委で協議したが、道路部分における遺構の現状保存は困難との結論に達し、発掘調査による記録保存の措置を講ずることで合意した。なお、調査名については「菅谷村東遺跡第6次調査」とした。

発掘調査は「群馬県内の記録保存を目的とする埋蔵文化財の発掘調査における民間調査組織導入事務取扱要綱」に準じ、令和2年5月29日に事業者・民間調査機関である株式会社飯塚組・市教委での三者協定を締結、事業者と民間調査機関の間で発掘調査の契約を締結し、調査実施にあたっては市教委が指導・監督することとなった。



第1図 調査区の位置

Ⅱ 地理的環境と歴史的背景

1. 地理的環境

高崎市は、西端側は長野県佐久郡軽井沢町、東端側は前橋市に接している。つまり、群馬県南西部を横断するようにあり（合併時の飛び地を含む）、榛名山南麓の大部分に市街地が広がる。また、地質的特徴から北半部には火山性噴出物で形成された相馬ヶ原扇状地、南半部はシルト層（粘性）に覆われた前橋台地が展開するとされ（群馬町教委 1987）、菅谷・村東遺跡は相馬ヶ原扇状地の扇端部にある。そして榛名山山麓から流下する中小河川が利根川に向かって走り、それらが榛名山扇状台地を刻んで細長い微高地を形成している。たとえば、本遺跡の西側には天王川・唐沢川、東側には染谷川・牛池川がそれぞれ流下しており、当該地は天王川・染谷川によって形成された台地上に分布している（標高 120 ～ 121m）。また天王川の西側を流下する唐沢川が共に下流域で井野川と合流し、染谷川の東側を流下する牛池川も共に下流域で井野川に合流している。こうして形成された微高地上の周辺はいくつかの古代期における遺跡が分布している。（第 2 図）

2. 歴史的背景

本遺跡は本調査が第 6 次調査となっており縄文時代から中・近世に至る資料が得られている。また本遺跡を含め周辺遺跡での調査でも多くの事例が報告されている。特に北東方面での遺跡では奈良・平安時代の資料が主体を占める事例が集中しており、その中に本遺跡も含まれている。そうした背景において、本遺跡を含む当該地域は古代群馬郡の中核地域としての社会体制が整備されていたことが窺われる。旧群馬町では古くから集落遺跡等の発掘調査が行われ、奈良・平安時代の代表的な史跡も多くの人々に知られたものとなっている（群馬町教委 1986）。つまり、律令体制が成立した時期の遺跡が当該地域全体に分布していたことを示している。旧群馬町でも多くの集落遺跡が調査され、七世紀代（古墳時代後期）から集落が整い始め、八世紀代（奈良時代）に安定した拡大化が進み、九世紀（平安時代）には最大のピーク期を示している。そして十世紀から十一世紀にかけて減少傾向を迎え、やがて竪穴住居そのものがみられなくなり、集落形態が大きな変換期を迎えたとされている。こうした集落の変遷過程では、立地環境の推移を地域的にまとめている。それによると、七世紀には唐沢川の上流域、八世紀代にはその西側方面へ移行し染谷川・牛池川流域へと増加し、逆に唐沢川流域方面が減少している。さて本遺跡における集落形態についてみると、唐沢川・天王川と染谷川によって形成された微高地に分布しており、西側から東側への移行地帯の中で集落形成が推移していったと思われる。出土遺物についてみると九世紀から十世紀の土器がまとまっており、当該地は集落編成期中盤から終盤に存在したものである。菅谷町一帯の微高地域に分布する各遺跡の中でも九世紀から十世紀にかけて集落が多く報告されており、当該地では 6 遺跡の調査結果が報告されている（春里・宮本 2019）。

本遺跡の南方域には古代交通路と推定されている「東山道駅路」が東西に通過するとされており、推定東山道の確認調査も実施されている（群馬町教委 1987）。

本遺跡の南西域に隣接して中世城館址がある（鬼形ほか 2015）。しかし主郭部分や外郭部分と思われる遺構はほぼ壊滅的で現況では踏査による目視や地籍図等による依存状態は確認できない。

本遺跡の北方域には近現代の遺跡として「旧陸軍前橋飛行場跡」（菊池 2008）があり、旧飛行場跡地の南東隅に位置する本遺跡では、戦争遺構に関連した資料は得られなかった。

第1表 古代の主な周辺の遺跡

	遺跡名	主な時代		遺跡名	主な時代
1	菅谷・村東遺跡	縄文・古墳～平安	21	徳昌寺前遺跡	古墳後～平安・中世
2	菅谷遺跡群	縄文・古墳～中近世	22	堤上遺跡	古墳後～平安
3	高貝戸遺跡 (推定東山道)	奈良・平安	23	正観寺西原遺跡	平安(水田)
4	菅谷遺跡	平安	24	大八木箱田池遺跡	縄文・古墳・平安
5	菅谷石塚Ⅱ遺跡	縄文・古墳～平安	25	小八木遺跡	弥生～平安
6	菅谷石塚遺跡	古墳・平安・中世	26	小八木葦貝戸遺跡	平安
7	福島飛地遺跡 (推定東山道)	奈良・平安	27	小八木村東遺跡	古墳～平安
8	西浦南遺跡	縄文・弥生後～平安	28	菅谷万年貝戸遺跡	平安～中近世
9	熊野堂遺跡	縄文・弥生後～平安	29	引間六石遺跡	奈良・平安～中近世
10	御布呂遺跡	古墳～平安・中世	30	西三社免遺跡	古墳～平安
11	寺ノ内遺跡	奈良～中近世	31	小池遺跡	縄文・古墳後～平安・中世
12	三ツ寺大下遺跡群	弥生後・古墳～平安	32	諏訪西遺跡	縄文・古墳後～平安・中近世
13	井出村東遺跡	弥生後～古墳後・平安・中世	33	後疋間遺跡群	古墳後～平安
14	中林遺跡	古墳後～平安	34	上野国分僧寺跡	奈良・平安(寺院跡)
15	三ツ寺Ⅱ遺跡	縄文・弥生後～平安	35	上野国分僧寺跡・尼寺中間地域	縄文～中近世
16	井出地区遺跡群	縄文・古墳後～平安・中近世	36	上野国分尼寺跡	奈良・平安(寺院跡)
17	道場遺跡群	平安・中世 (館跡)	37	元総社北川遺跡	縄文～平安・中世
18	三ツ寺Ⅲ遺跡	古墳後～平安	38	上野国府推定域	奈良・平安
19	保渡田遺跡	古墳後～平安	39	元総社小学校校庭遺跡	奈良・平安
20	保渡田東遺跡	古墳後～平安	40	史跡日高遺跡	弥生～平安
			41	中尾遺跡	古墳～平安
			42	金尾城跡	中世(城館址)
			43	菅谷城跡	中世(城館址)

Ⅲ 調査の方法・経過・基本層序

1. 調査の方法

本遺跡の調査は、試掘調査に基づいた調査区により表土及び攪乱区域を重機で掘削し遺構確認面の精査、検出、各遺構の掘削を人力で行った。調査区は宅地造成用地内の道路予定地北側2ヶ所(工事用地の東側と西側)に設定され、東側を1区、西側を2区とした(第1図)。

本調査では、東側に隣接する第1次調査区において検出された集落跡の西側における範囲確認を目的とした。遺構確認面をジョレンで精査した後に、土層堆積の深度確認のため、調査区の北壁沿いに幅50cmのトレンチ掘削を行った。これにより攪乱土層の深度も合わせて確認した。本来の遺構構築面と思われる自然堆積層がのちの開発行為等により消失しており、検出された遺構は全て遺構確認面によるものである。

遺構掘削は、ジョレン・移植ベラ等を使用し検出後は、大型のもの(竪穴建物等)はセクションベルトを設定し、小型のもの(土坑・ピット等)は半載して土層観察を行った。

図面・写真等の記録は、土層断面・遺物出土状況・完掘状況・遺構分布状況の各段階で行い、断面図は手実測で行い平面図は光波測量を行った。遺構図は縮尺1/20・1/40微細図は1/10とした。記録写真は、35mmカラーリバーサル・35mmモノクロフィルム・デジタル一眼レフカメラを使用し、遺跡全体及び各遺構の全体

はドローンにより空中撮影を行った。

2. 調査の経過

発掘調査は、令和2年6月22日～7月3日に実施した。

6月22日：1区より重機を使用して表土掘削。プレハブ1棟及び休憩用テント設営。

調査区周辺の環境整備（安全ロープ・看板等の設置）。基準点設置。

6月23日：1区及び2区の表土掘削。遺構確認面の精査及び検出。上面遺構掘削開始。

湧水対策の為に開渠掘削（調査区北壁沿い）。

6月25日：遺構測量開始（手実測及び光波測量）。2区上面掘削開始。

6月29日：1区上面掘削終了。調査区全体写真。間層掘削（重機）。

7月1日：2区上面掘削終了。調査区全体写真。1区下面掘削終了。

2区下面遺構掘削。

7月3日：2区下面掘削終了。調査区全体写真（空撮）。発掘資材撤収。

高崎市教育委員会による調査終了の現地確認。

整理作業は、令和2年7月4日～10月30日に実施した。

7月期～基礎整理1：遺物の洗浄及び注記。土器接合。拓本作成。

8月期～基礎整理2：遺構実測図（平面図・断面図）整理。土器復元。

9月期～基礎整理3：挿図作成（遺構・遺物実測図・拓影図等）。

10月期～報告書作成：掲載用図版作成（実測図版・写真図版）。本文原稿執筆。

11月期～報告書原稿一式入稿。校正・印刷・刊行。

3. 基本層序

本調査区の基本層序は、調査区北壁に土層確認用トレンチを入れたが、V層下面からの湧水が多量に発生した。また旧工場跡地解体後の整地過程で大規模な土地の入れ替えが影響したため、広範囲の攪乱層がある。特に2区の南側調査区は、南から北への緩い傾斜をなしており上面の削平によってローム層上面（VII層）が露出していた。そのため、正確な確認が不可能であった。よって本項で表記した基本層序は、試掘調査のデータを参照し引用した（第3図）。

上面の遺構確認面はIV層上面で主に古代期の遺構・遺物が検出された。下面の遺構確認面はVI層上面（ローム漸移層）で、縄文期以降の遺構が検出された。なお、下面で検出された遺構の中には、上面で確認できなかった土坑やピットが混在していたが、覆土堆積状況の観察で確認できたものを2分した。

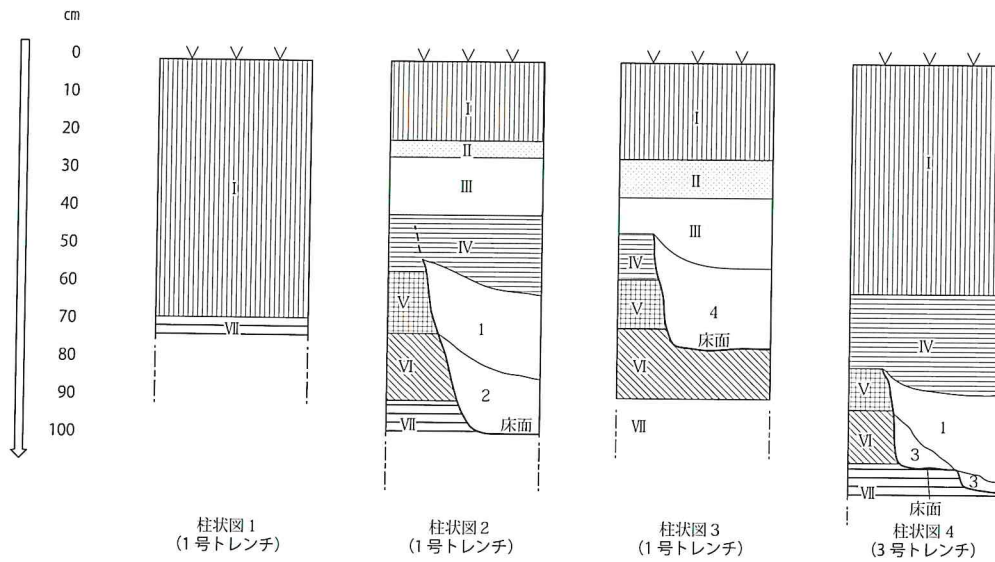
IV 調査の結果

1. 遺跡の概要

第6次調査では、竪穴建物跡4軒、土坑4基、ピット14基、溝遺構1基が検出された。1区では竪穴建物跡2軒、土坑3基、ピット1基、土器集中1ヶ所で、2区では竪穴建物跡2軒、土坑1基、ピット13基、溝状遺構1基である。さらに1区上面では竪穴建物跡2軒、土坑1基、ピット1基、土器集中が1ヶ所、2区上面では、竪穴建物跡2軒、ピット6基、溝状遺構1基である。1区下面では土坑2基、2区下面では土坑1基、

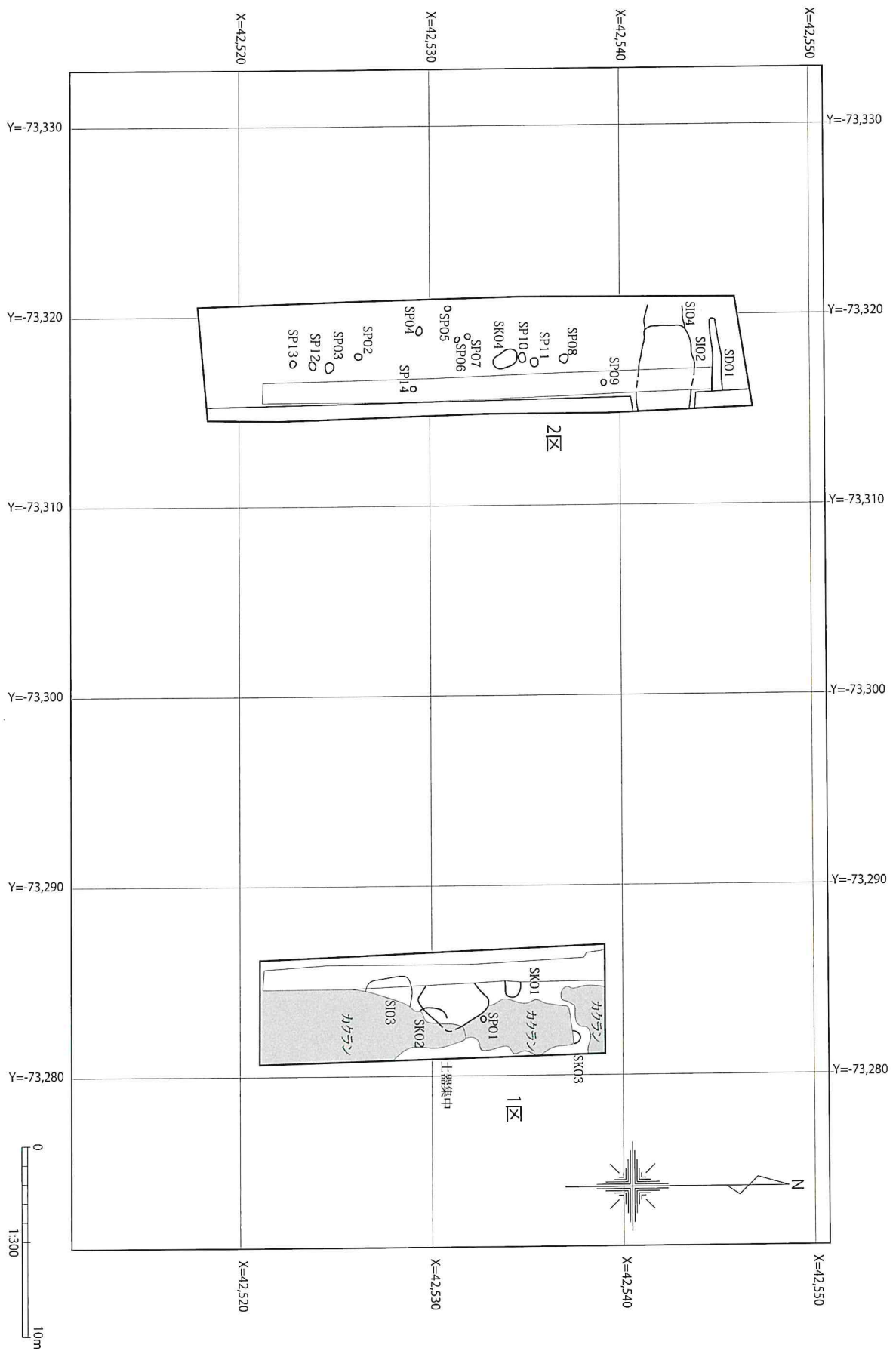
区分	模式柱状図	土質 (土色・含有物・粘性・しまり等)	層厚 cm	遺物包含層・遺構構築面及び確認面	備考
I		表土 ガレキ混入の盛土	20-80	土師器、須恵器、縄文土器、石器が混入	
II		灰黄褐色土 (10YR4/2) As-B層が少量含まれる	0-4		
III		にぶい黄褐色土 (10YR4/3) As-C軽石粒3~5mm、ブロック状のローム粒 が少量含 ややソフト	10-15	須恵器 (杯・皿・碗・甑) 土師器 (杯・碗・甑)	
IV		暗褐色度 (10YR3/3) As-C軽石粒3~5mm、ローム粒2~5mmが 3%含、しまりあり	10-20		
V		黒褐色度 (10YR3/2) As-C軽石粒、ローム粒を若干含 (所謂C黒) 全体的にしまりあり	10-15		
VI		褐色度 (10YR4/6) ローム漸位層、粘性ありややしまっている	20-30	縄文土器 礫石器	
VII		黄褐色土 (10YR5/6) ローム層、しまりが強い、湧水あり			

基本層序模式図

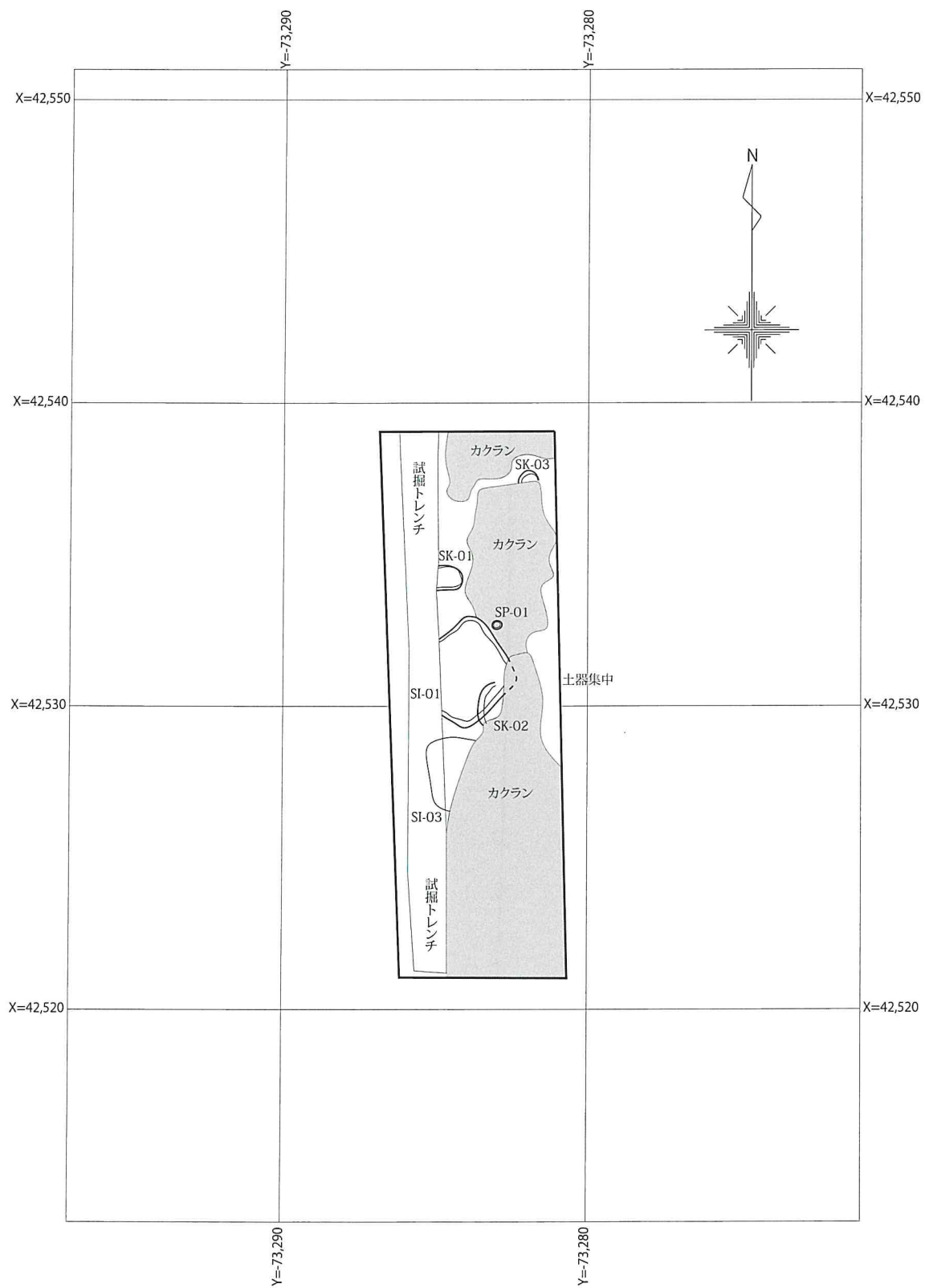


試掘土層模式図 (高崎市教育委員会試掘データより)

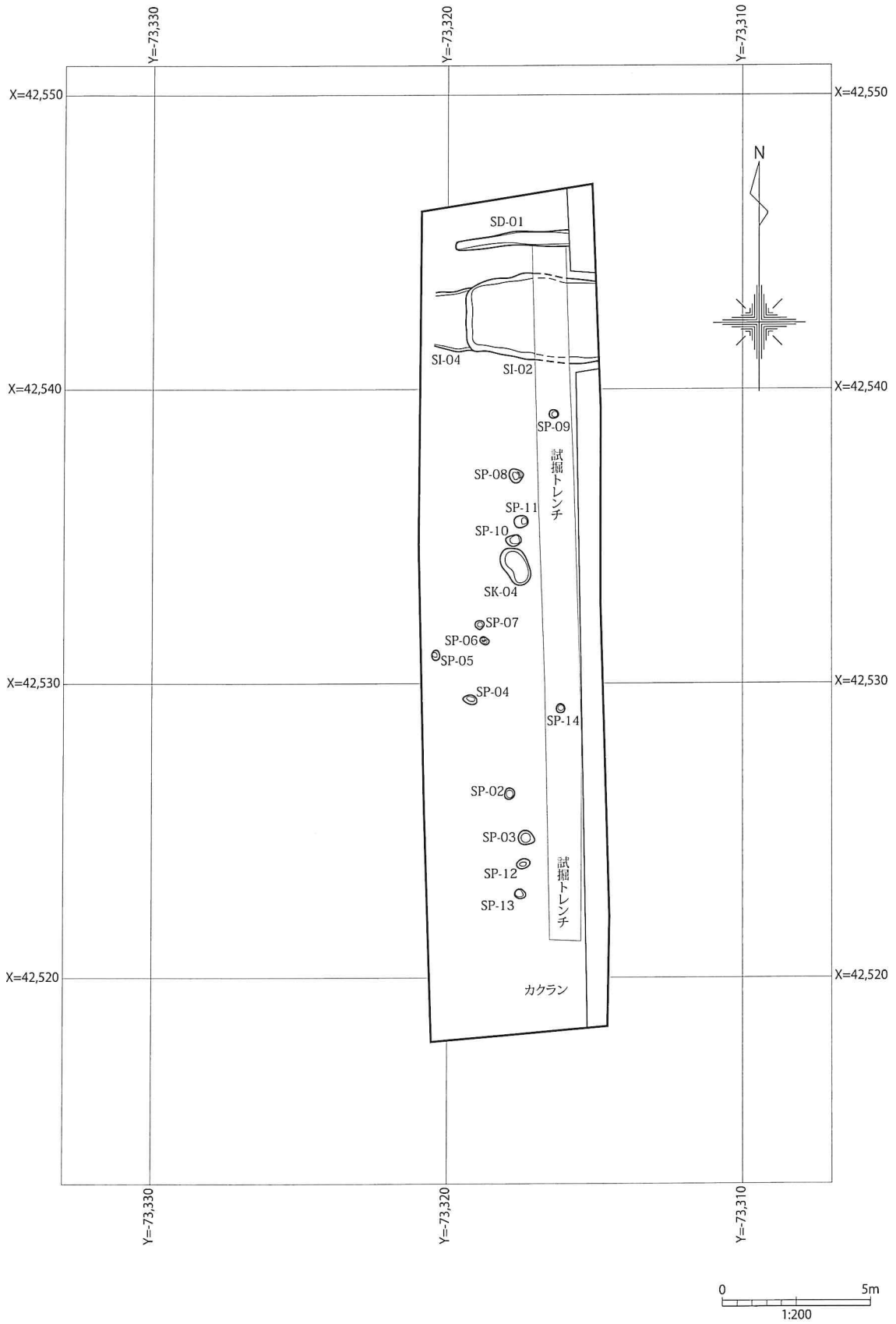
第3図 基本層序



第4図 菅谷・村東遺跡調査区域図



第5図 1区遺構配置図



第6図 2区遺構配置図

ピット7基である。

前項でも述べたが本調査区の東側約20m離れて第1次調査区があり、竪穴建物跡が重複しながら密集するように検出された集落跡が存在する。そしてこれらの竪穴建物跡にはカマドの付設がほぼ全てにみられているが、本調査区ではカマドの付設がみられなかった。出土遺物は主に遺構内によるもので、特に竪穴建物跡の覆土及び床面直上で確認された。遺物の中心は、須恵器・土師器・灰釉陶器等で、八世紀後半・九世紀～十世紀後半のものが多い。また調査区内の攪乱層や各遺構の覆土中には、縄文時代中期以降から古墳時代、中近世の遺物が混在しており後世の流れ込み的な現象もみられる。遺構確認については試掘調査のデータをもとに上面と下面とで行い、上面を古代期とし、下面を縄文期以降とした。以下に上面から各遺構の検出状況を記していく。なお、遺構の通し番号は、1区・2区上面・下面の調査順に付しているものである。

2. 検出された遺構と遺物

上面 古代期（奈良・平安）

A：竪穴建物跡（SI）

SI-01（第7図、第11図、P.L. 2、P.L. 5）

位置：1区。単独遺構で平面形は隅丸方形である。北側にSK-01北東側にSP-01東側に土器集中南側にSI-03がそれぞれ近接して分布する。規模は、南北軸3.2m、東西軸2.8m、残存部の深さ41cmである。付設する遺構（カマド・ピット・貯蔵穴）はない。床面は平坦で中央部分の直径約1.5mの範囲に硬化面が認められた。覆土堆積状況は、上層にAS-C軽石粒が全体に含まれ若干砂質である。下層は黒褐色土がベースでやや粘性のある堆積土で自然堆積状況を示す。出土遺物は覆土中から土師器の坏・甕、須恵器の坏・高台付坏・埴が中心である（第11図-1～21）。また覆土上層部では縄文時代の礫石器等も含まれていた。時期は九世紀前半から後半と考えられる。

SI-02（第8図、第13・14図、P.L. 2、P.L. 6・7）

位置：2区。重複関係は、西側壁面にSI-04がありSI-02が切っている。平面形は隅丸長方形である。残存部の規模は南北軸が約2.8m、東西軸が4.5mで、残存の深さ約52cmである。付設する遺構（カマド・ピット・貯蔵穴）はない。床面は平坦で中央部分がややしまっている。覆土堆積状況は、SI-01に類似するものでAS-C軽石粒・黄色粒が主体で自然堆積状況を示す。出土遺物は、覆土中から土師器の坏・甕、須恵器の坏・高台付坏・埴・羽釜である（第13図-30～39、第14図-40～51）。特に東側に集中して分布している。また覆土上層部で、縄文土器・礫石器・埴輪の破片等が混在していた。時期は九世紀全般から十世紀後半のものと考えられる。

SI-03（第7図、第12図、P.L. 2、P.L. 5）

位置：1区。重複関係はなく単独遺構であるが広範囲の攪乱を受けており、残存部は硬化した床面のプランが確認できたのみである。平面形は隅丸方形である。残存部の規模は南北軸約2.4m、東西軸最大で1.5mである。付設する遺構（カマド・ピット・貯蔵穴）はない。覆土堆積状況が確認できたのは、試掘調査1トレンチ柱状図2によるものである。上層部はAS-C軽石粒・黄色粒が主体でやや粘性ある。自然堆積状況を示す。出土遺物は残存するセクションベルト内（覆土中）から土師器の坏、須恵器の坏・高台付坏である（第12図-22～26）。時期は八世紀末から九世紀初頭と考えられる。

SI-04（第8図、第15図、P.L. 3、P.L. 7）

位置：2区。重複関係は東側でSI-02に切られており西側は西壁側に消える。平面形は隅丸方形と推定される。

残存部の規模は、南北軸は最大で約 2.0 m で東西軸は計測不可能である。覆土堆積状況は、AS-C 軽石粒を多く含みややしまりあり。自然堆積状況を示す。出土遺物は、須恵器杯の口縁部破片である（第 15 図－ 60）。時期は八世紀末から九世紀初頭と考えられる。

B：土坑（SK）

SK-01（第 9 図、第 15・16 図、P L. 3、P L. 8）

位置：1 区。重複関係はなく単独遺構であるが試掘トレンチ掘削時に西側が欠損する。平面形は楕円形である。長軸は東西方向で残存部は約 80cm、深さは最深部で 50cm である。覆土堆積状況は単層で粗い AS-C 軽石粒を多く含む砂質の暗褐色土層が主体である。自然堆積状況を示す。出土遺物は、覆土中で土師器杯・甕の破片、礫石器である（第 15 図－ 52・56～59）。時期は十世紀中葉から後半と考えられる。

C：ピット（SP）

SP-01～03・06・07・10・11（第 10 図、第 15 図、P L. 4、P L. 8）

位置：SP-01 は 1 区。SP-03・05・06・10・11 は 2 区である。平面形はいずれも円形か不整円形で現存の深さは 20～30cm である。覆土堆積状況は全て単層で AS-C 軽石粒を含む暗褐色土層である。自然堆積状況を示す。出土遺物は SP-03 の覆土中から土師器杯の口縁部破片である（第 15 図－ 61）。時期は九世紀中葉から後半と考えられる。

D：溝状遺構（SD）

SD-01（第 9 図、第 15 図、P L. 4、P L. 8）

位置：2 区。調査区の北端部に位置し長軸方向は東西を示す。現存部の長さは 3.8 m で深さ約 50cm である。覆土堆積状況は AS-C 軽石粒を少量含む黒褐色土が主体で粘性ある。自然堆積状況を示す。出土遺物は、土師器甕の口縁部破片である（第 15 図－ 62）。時期は九世紀前半から後半と考えられる。

E：その他

遺構外出土遺物（第 9 図、第 12 図、P L. 4、P L. 8）

位置：1 区。調査区の中央部で SI-01 の東側に隣接して土器集中が検出された。出土層位はⅢ～Ⅳ層で AS-C 軽石粒を含む遺物包含層中である。出土遺物は、土師器杯・甕・須恵器杯である（第 12 図－ 27～29）。時期は八世紀後葉から九世紀前葉と考えられる。

下面 縄文期以降（縄文時代中期末葉～後期初頭・古墳）

B：土坑（SK）

SK-02・03・04（第 9 図、P L. 3）

位置：SK-02・03 は 1 区、SK-04 は 2 区である。SK-02・03 は攪乱における影響が大きく残存部が少ないが形態的特徴は確認できた。平面形は楕円形であるが規模は測定不可能である。覆土堆積状況は砂粒や粘土粒を含まない黒褐色土でやや粘性ある。AS-C 軽石粒が覆土中に含まないことで古い時期と識別した。出土遺物はない。SK-04 は調査区の中央部に位置する。平面形は楕円形で長軸方向は南北を示す。規模は長径 136cm、短径 79cm で現存部の深さは約 30cm である。覆土堆積状況は砂粒・ローム粒を含まない灰黄褐色土で粘性ある。出土遺物はない。

C：ピット（SP）

SP-04・05・08・09・12～14（第10図、P.L. 4）

位置：2区。平面形は、円形・楕円形・不整形である。規模は径寸30～40cmで現存の深さは20～30cmである。覆土堆積状況は砂粒や粘土粒を含まない黒褐色土でやや粘性あるがソフトである。出土遺物はない。

V まとめ

菅谷・村東遺跡にみる奈良・平安時代の集落の変遷について

本遺跡は、過去数回の調査から縄文時代・古墳時代・奈良平安時代・中世の各時期が重複する資料を得ているが、その中心となる時期は古代の集落跡である（第1次～5次調査）。これまで竪穴建物跡を主体とした集落跡が検出されてきた中で、第1次・2次調査で61軒、第3次・第5次調査で34軒、第4次調査で11軒が報告されている（宮田ほか2011・水谷ほか2011）。概ね110軒の竪穴建物跡が微高地上に集落形成を成していたことが窺われる。また複数の竪穴建物跡には重複関係がみられた中で、時間軸ごとの集落構成が想定されるとし、「菅谷・村東遺跡第3次・第5次調査」（宮田2011）では重複関係と出土遺物の観察から当該地の集落変遷を試みる。それによると「八世紀後半から十一世紀以降間で8期の集落変遷をまとめており、I期8世紀後半・II期8世紀末～9世紀初・III期9世紀前半・IV期9世紀後半・V期9世紀後半～10世紀前半・VI期10世紀前半・VII期10世紀後半・VIII期11世紀以降としている。」

この集落変遷から「V期の9世紀後半～10世紀前半になると集落規模が拡大するとあり11世紀になると集落の広がりは一と段落し第1次調査区（I区）へ限定地域が移行する傾向である。」やがてその集落も終末を迎えるとその後は東側の第4次調査区（V区）に移行するようである。本遺跡の南側に「菅谷遺跡群」（田辺2015）があり149軒もの竪穴建物跡が検出されており、奈良・平安時代の所産としたものが135軒であった。時期別内訳は「8世紀代—6軒、9世紀代—107軒、10世紀代—8軒、その他14件とある。この中でも9世紀代の軒数が圧倒している。そして10世紀代以降になると減少し始めやがて調査区北側方面（菅谷・村東遺跡を指す？）に偏るとしている。9世紀代に集落が拡大する傾向は前記の集落変遷と状況が酷似している。また菅谷遺跡群の南側を通過する「推定東山道駅路」（国府ルート）の成立年代を9世紀代」とするならば、菅谷・村東遺跡や菅谷遺跡群での集落繁栄との関連性はより高い。

「推定上野国府」周辺の古代景観（中村2018）の中で中村氏は、「元総社蒼海遺跡群（121）」（中村2017）の調査で検出された大規模な溝遺構や道路様遺構を俯瞰し、古代前段階からの上野国府周辺における景観をまとめている。それによると古墳時代後期の竪穴建物跡の変遷に触れている。たとえば、染谷川、牛池川、八幡川の流域に分布する竪穴群を三群（A群・B群・C群）に分類しそれぞれに違った性格の景観があることを示している。A群・B群は村落とした小規模地域でC群は生産基盤が充実した区域や官衙的建造物が存在する景観を想定している。そうした背景から古代観では溝と道に注目し、村落を走る道や溝・生産域に通じる道や溝・社会的中枢域に向かう大規模な街道筋等が開削されていた様相が示される。つまり律令制度開始に伴い大きな社会的変換期をむかえ様変わりする景観が想定される。

菅谷・村東遺跡での集落変遷では西側から東側へ移行拡大がみえ、菅谷遺跡群での集落変遷では南から北側への移行拡大等の変化がみられ、まさに「推定上野国府」に向かっていく様相がみえてくる。

今回の第6次調査で出土した須恵器・土師器を観察してみると、前述の「I期8世紀後半からV期9世紀後半～10世紀前半」に符合するものである。ただそれに伴い検出された竪穴建物跡4基にはカマドの構造が認め

られなかった。本調査区の東隣に「10～11世紀の集落（第1次調査区）」がある。44軒の竪穴建物跡はほとんどにカマドの構造がある。この集落の西端部に位置する竪穴建物跡4基は、その性格上住居ではない可能性がある。また前者は第1次調査区の北端部に、幅広のものと幅の狭い2条（4溝・12溝）の溝状遺構が東西方向に軸を置いて検出されている。これは本調査区の1区北側に位置しており確認できなかったが、2区の調査区北端部に幅の狭い（12溝か？）溝状遺構が確認されており関連性を示唆するものである。

引用・参考文献

- 石川 薫 1981 「上野国群村誌6」 群馬県文化事業振興会
 鬼形芳夫ほか 1986 「群馬町の遺跡」 群馬町教育委員会
 若狭 徹 1987 「推定東山道」 群馬町教育委員会
 群馬町誌編さん委員会 1998 「群馬町誌 資料編1 原始古代・中世」 群馬町誌刊行委員会
 五十嵐 信ほか 2000 「高崎市史 資料編2 原始古代Ⅱ」 高崎市教育委員会
 清水 豊 2000 「鍋について考える」第6回特別展 かみつけの里博物館
 桜岡正信ほか 2001 「くにのはな 国華」第8回特別展 かみつけの里博物館
 清水 豊 2004 「1108 浅間山大噴火 中世への胎動」第12回特別展 かみつけの里博物館
 清水 豊 2005 「高崎藩の考古学」第13回特別展 かみつけの里博物館
 内田真澄 2005 「釜の登場 平安時代の煮炊きを探る」夏季企画展 かみつけの里博物館
 矢島 浩 2013 「上野国国分寺 瓦に込められた祈り」第22回特別展 かみつけの里博物館
 菊池 実 2008 「戦争遺跡の発掘 陸軍前橋飛行場」 新泉社
 水谷貴之ほか 2011 「菅谷・村東遺跡4」 高崎市教育委員会
 宮田忠洋ほか 2011 「菅谷・村東遺跡第3次・5次調査」 高崎市教育委員会
 田辺芳明 2015 「菅谷遺跡群Ⅰ」 高崎市教育委員会
 小峰 篤ほか 2017 「元総社蒼海遺跡群（121）」前橋市教育委員会
 中村岳彦 2018 「上野国府」周辺の古代景観 群馬文化 群馬地域文化研究協議会
 春里桃子ほか 2019 「菅谷高畑遺跡2」 高崎市教育委員会 毛野考古学研究所

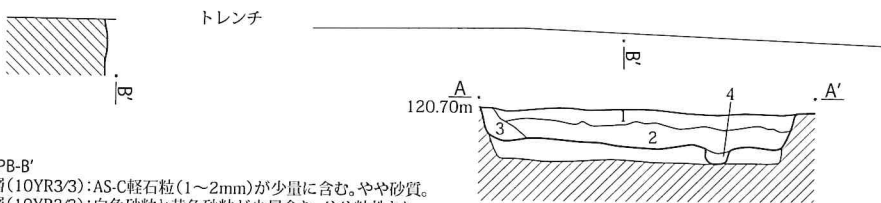
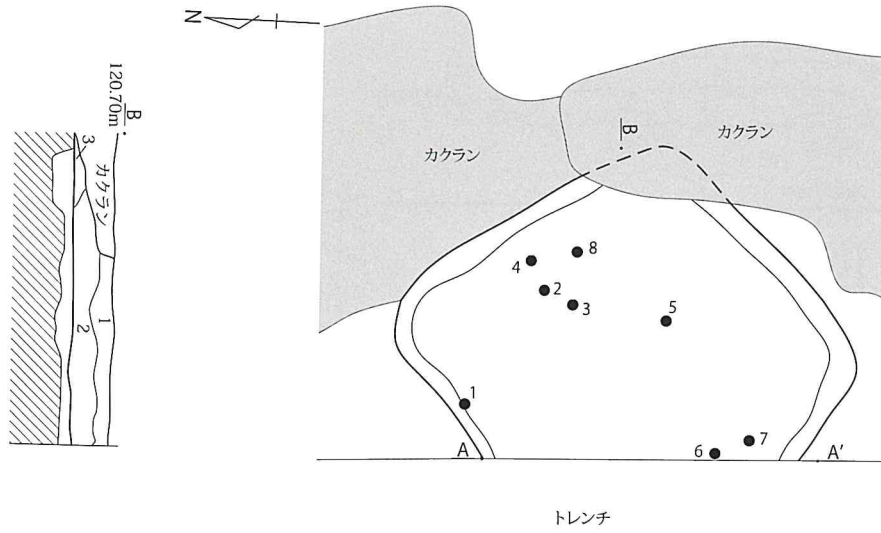
第2表 土坑・溝計測表

遺構名	平面形態	規模 (cm)			時期	備考
		長軸	短軸	深さ		
SK-01	楕円形	(85)	80	27	平安時代以降	
SK-02	不明	—	—	—	縄文時代以降	
SK-03	円形	—	65	9	縄文時代以降	
SK-04	楕円形	136	79	24	縄文時代以降	
SD-01	—	(370)	55	25	平安時代以降	

第3表 ピット計測表

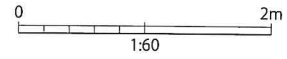
遺構名	平面形態	規模 (cm)			時期	備考
		長軸	短軸	深さ		
SP-01	円形	32	28	28	平安時代以降	
SP-02	楕円形	40	32	12	平安時代以降	
SP-03	楕円形	60	47	20	平安時代以降	
SP-04	楕円形	49	30	23	平安時代以降	
SP-05	楕円形	35	25	21	平安時代以降	
SP-06	楕円形	30	23	11	平安時代以降	
SP-07	円形	30	30	12	平安時代以降	
SP-08	楕円形	50	50	22	平安時代以降	
SP-09	円形	30	28	9	平安時代以降	
SP-10	楕円形	55	40	24	平安時代以降	
SP-11	楕円形	50	40	18	平安時代以降	
SP-12	楕円形	45	32	23	平安時代以降	
SP-13	楕円形	38	30	18	平安時代以降	
SP-14	円形	30	28	9	平安時代以降	

SI-01

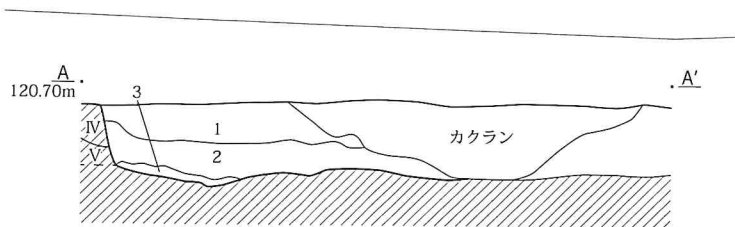
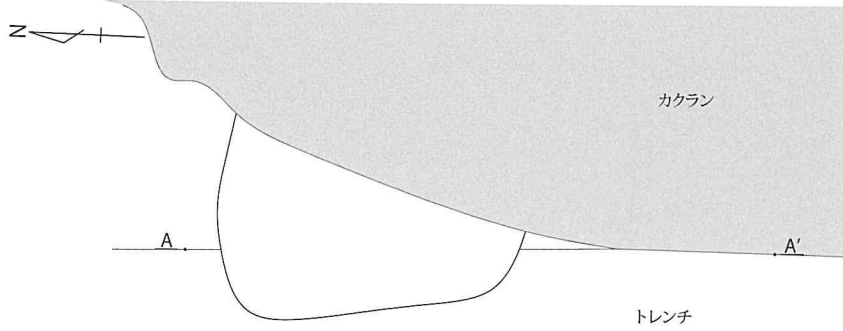


SI-01 SPA-A' SPB-B'

1. 暗褐色土層(10YR3/3):AS-C軽石粒(1~2mm)が少量に含む。やや砂質。
2. 黒褐色土層(10YR3/2):白色砂粒と黄色砂粒が少量含む。やや粘性あり。
3. 黒褐色土層(10YR3/2):ローム粒がブロック状に含む。やや粘性あり。
4. 暗褐色土層(10YR3/3):ローム粒が少量含む。少々粘性あり。

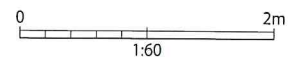


SI-03



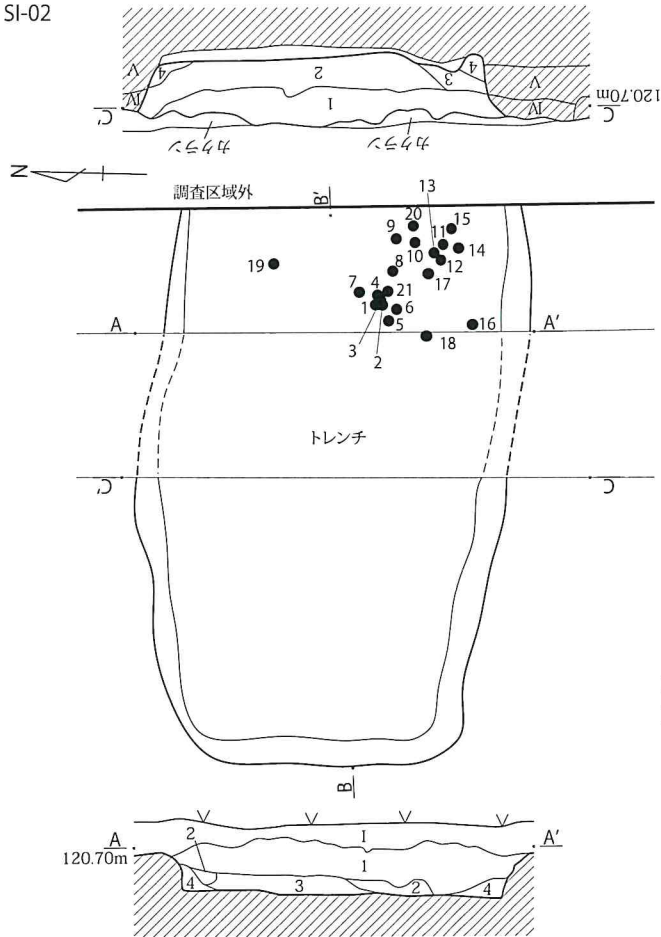
SI-03 SPA-A'

1. にぶい暗褐色土層(10YR3/3):AS-C軽石粒(1~2mm)とローム粒が多量に含む。ややしまりあり。
2. 黒褐色土層(10YR3/2):ローム粒が少量含む。粘性あり。
3. 暗褐色土層(10YR3/4):ロームブロックが多量に含む。ソフトで粘性あり。



第7図 SI-01・SI-03

SI-02

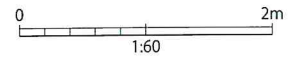


SI-02 SPA-A' SPB-B'

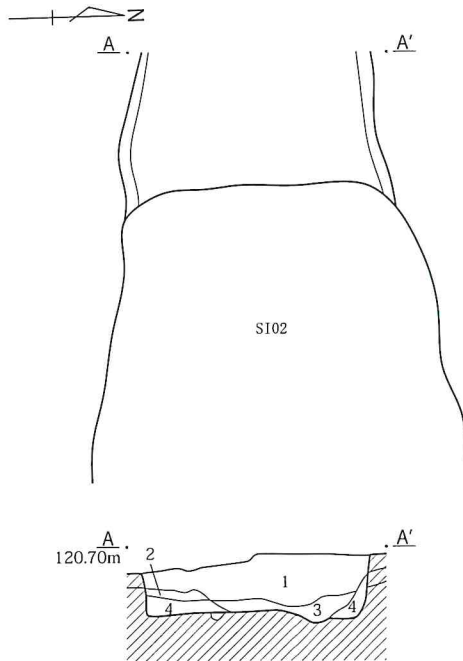
1. にぶい暗褐色土層(10YR3/4):AS-C軽石粒(2~3mm)とローム粒が多量に含む。ややしまりあり。
2. 灰黄褐色土層(10YR6/2):ロームブロックが多量に含む。ややソフトで粘性あり。
3. 暗褐色土層(10YR3/3):粒子が極めて少量含む。ややソフトで粘性あり。
4. にぶい黒色土層(10YR3/2):3層より粒子の混入がなく、粘性あり。

SI-02 SPC-C'

1. 暗褐色土層(10YR3/3):AS-C軽石粒(2~3mm)が多量に含む。しまりあり。
2. 黒褐色土層(10YR3/2):白色砂粒・黄色砂粒が少量含む。やや粘性あり。
3. 暗褐色土層(10YR3/3):砂粒が微量に含む。粘性あり。
4. にぶい暗褐色土層(10YR3/3):ローム粒が小ブロック状に含む。ややソフト。

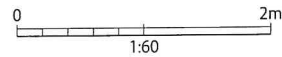


SI-04



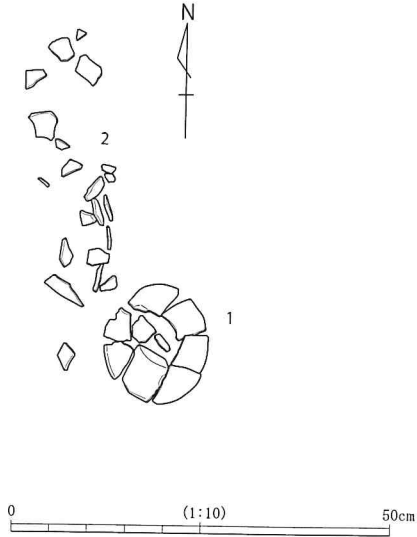
SI-04 SPA-A'

1. 暗褐色土層(10YR3/3):AS-C軽石粒(1~2mm)が少量に含む。やや砂質。
2. 黒褐色土層(10YR3/2):白色砂粒と黄色砂粒が少量含む。やや粘性あり。
3. 黒褐色土層(10YR3/2):ローム粒がブロック状に含む。やや粘性あり。
4. 暗褐色土層(10YR3/3):ローム粒が少量含む。少々粘性あり。

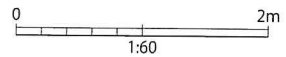
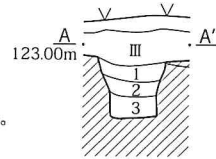
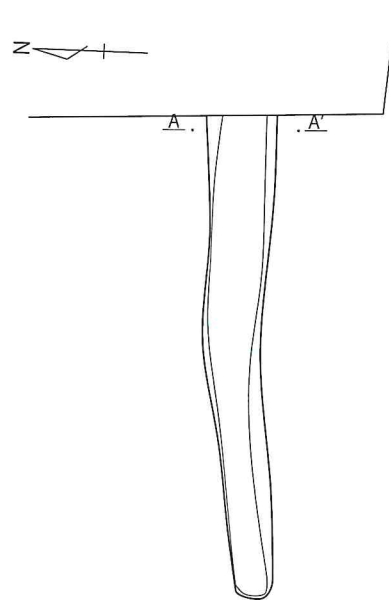


第8図 SI-02・SI-04

土器集中



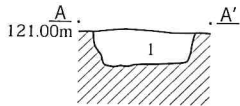
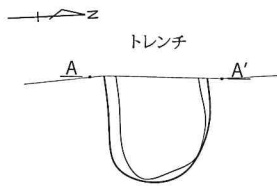
SD-01



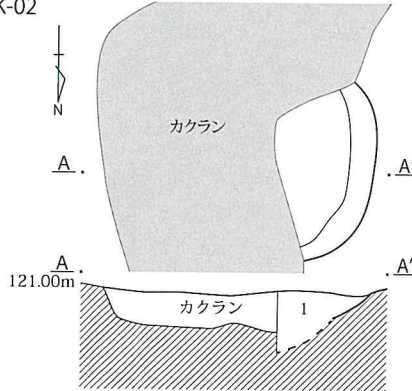
SD-01 SPA-A'

1. 黒褐色土層(10YR3/2):砂粒・ローム粒が多量に含む。粘性あり。

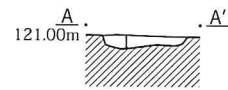
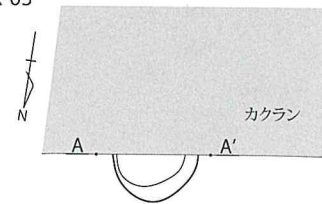
SK-01



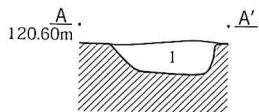
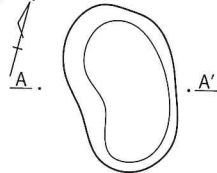
SK-02



SK-03



SK-04



SK-01 SPA-A'

1. 暗褐色土層(10YR3/3):AS-C軽石粒(2~3mm)が多量に含む。若干砂質。

SK-02 SPA-A'

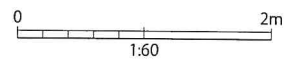
1. 黒褐色土層(10YR3/2):白色砂粒と黄色砂粒が少量含む。やや粘性あり。

SK-03 SPA-A'

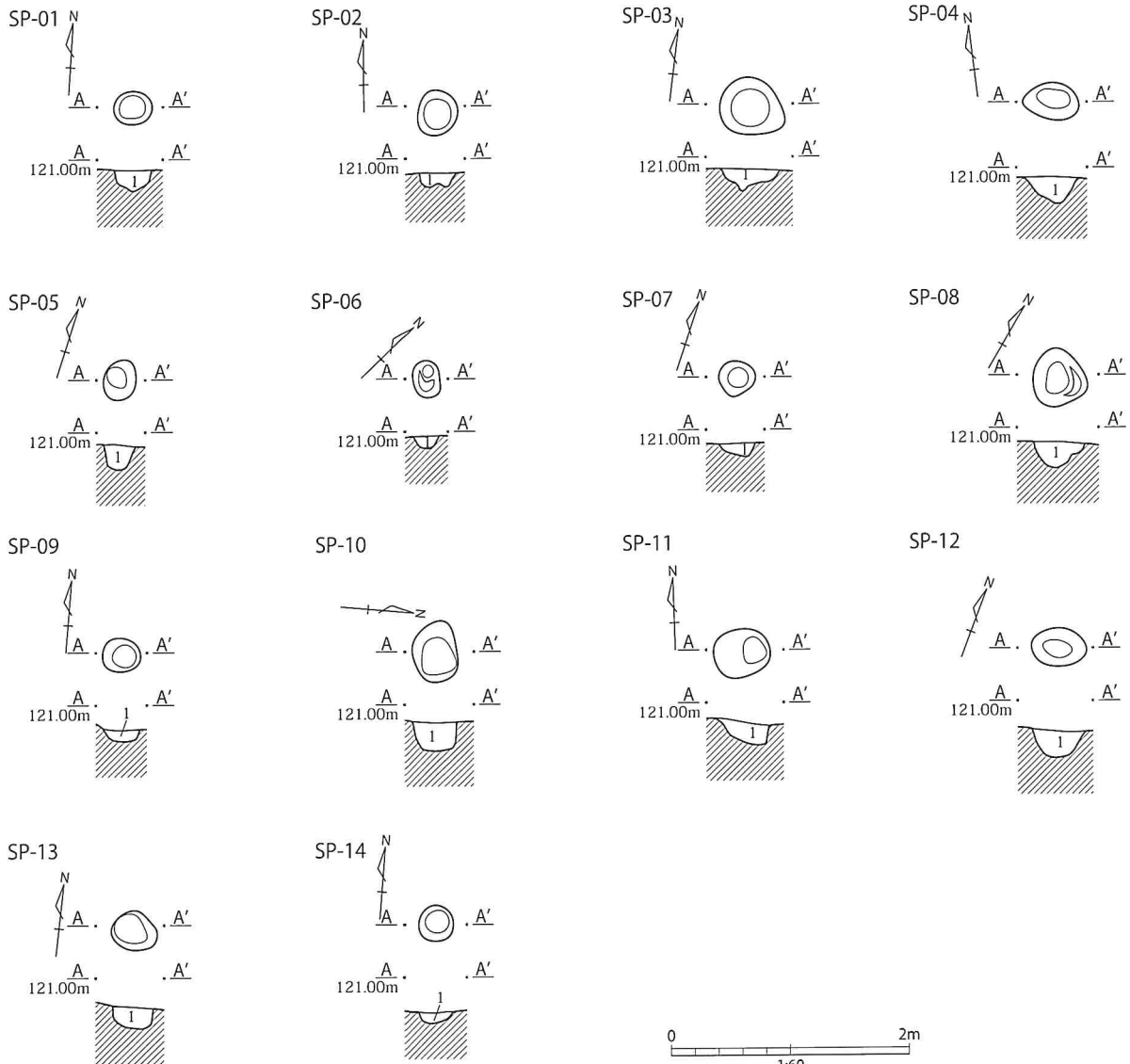
1. 黒褐色土層(10YR3/2):白色砂粒と黄色砂粒が少量含む。やや粘性あり。

SK-04 SPA-A'

1. 灰黄褐色土層(10YR6/1):砂粒・ローム粒が多量に含む。ややソフトで粘性あり。



第9図 土器集中・SD-01・SK-01～04

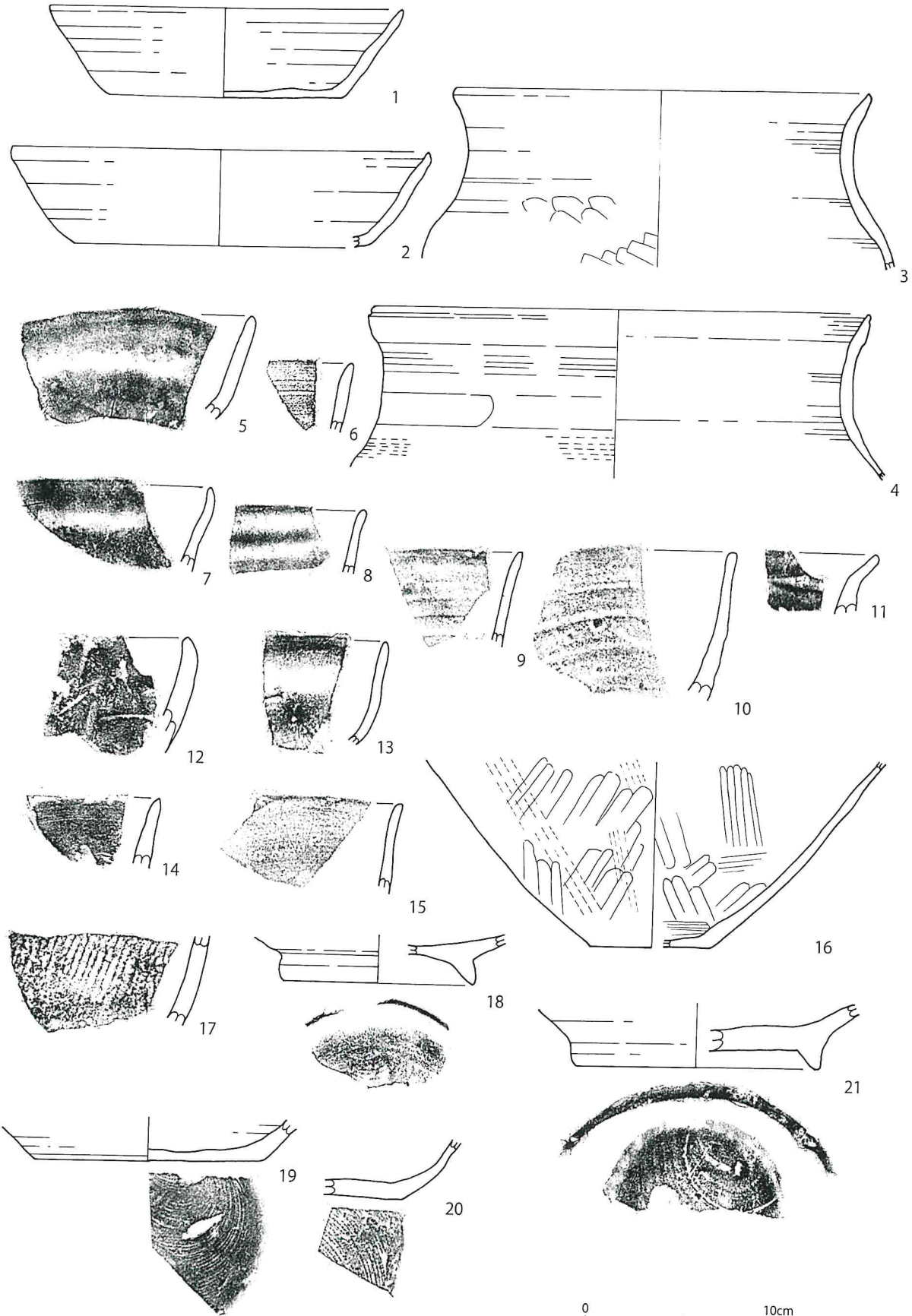


- SP-01
1. 黒褐色土層(10YR3/2):白色粒・黄色粒が少量含む。ややソフト。
- SP-02
1. 暗褐色土層(10YR3/3):白色粒・黄色粒が少量含む。ややソフト。
- SP-03
1. 暗褐色土層(10YR3/3):白色粒・黄色粒が少量含む。ややソフト。
- SP-04
1. 黒褐色土層(10YR3/2):ローム粒が少量含む。粘性あり。
- SP-05
1. 黒褐色土層(10YR3/2):砂粒・ローム粒が少量含む。ややソフト。
- SP-06
1. 暗褐色土層(10YR3/4):白色粒・黄色粒が少量含む。ややソフト。
- SP-07
1. 淡黄褐色土層(10YR5/4):黄色粒が少量含む。粘性あり。

- SP-08
1. 黒褐色土層(10YR3/2):ローム粒が少量含む。粘性あり。
- SP-09
1. 黒褐色土層(10YR3/2):ローム粒が少量含む。粘性あり。
- SP-10
1. 暗褐色土層(10YR3/3):ローム粒が少量含む。粘性あり。
- SP-11
1. 淡黄褐色土層(10YR5/4):白色粒・黄色粒が少量含む。しまりあり。
- SP-12
1. 黒褐色土層(10YR3/2):砂粒・ローム粒が少量含む。粘性あり。
- SP-13
1. 黒褐色土層(10YR3/2):砂粒・ローム粒が少量含む。粘性あり。
- SP-14
1. 黒褐色土層(10YR3/2):砂粒・ローム粒が少量含む。粘性あり。

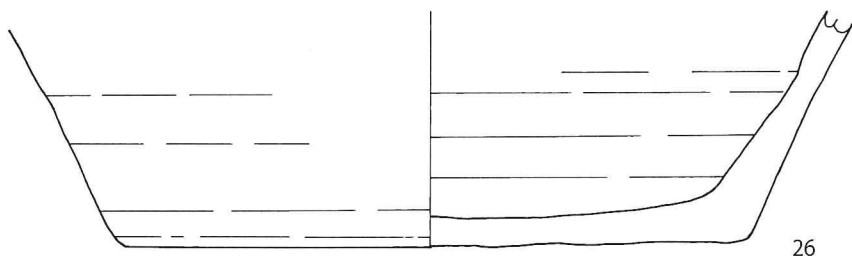
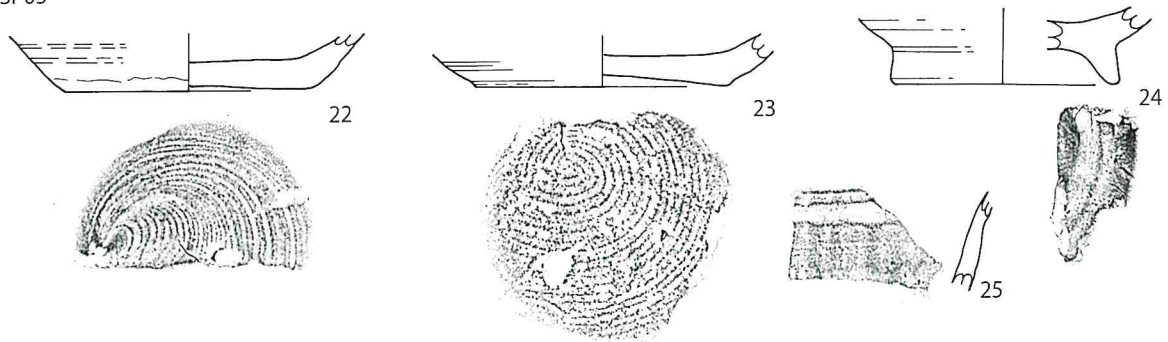
第 10 図 SP-01 ~ 14

SI-01

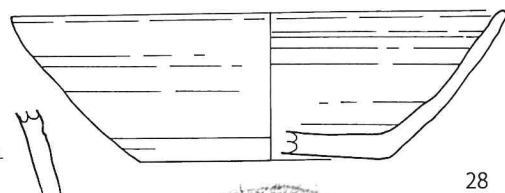
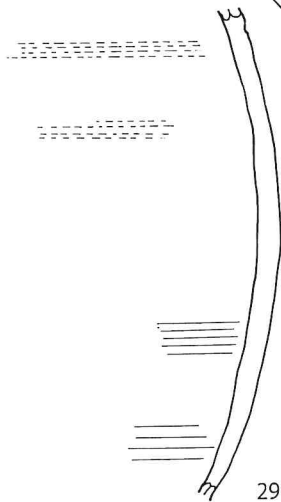
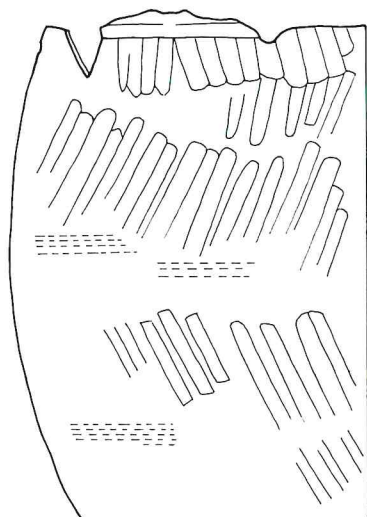
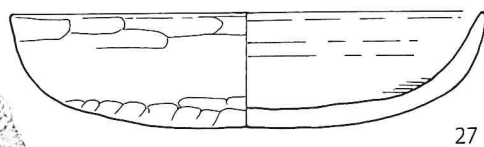


第11図 出土遺物(1)

SI-03

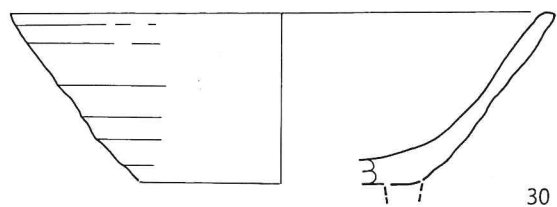


遺構外

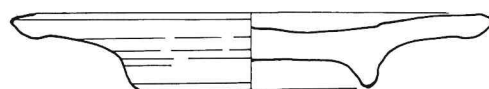


第12図 出土遺物(2)

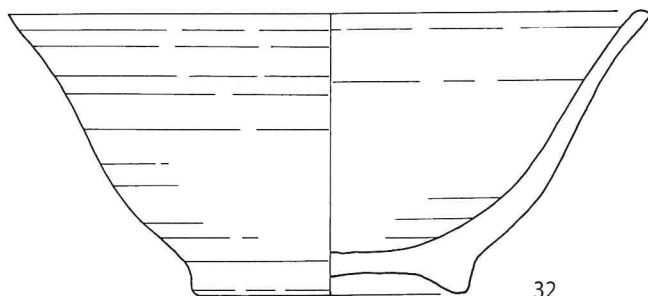
SI-02



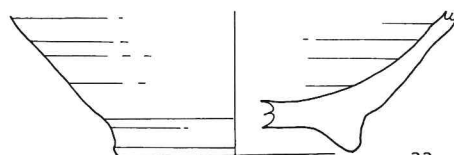
30



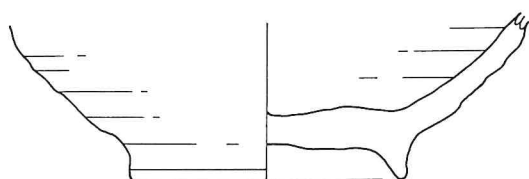
31



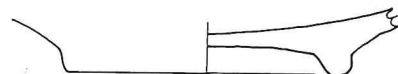
32



33



34



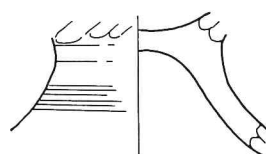
35



36



38



37

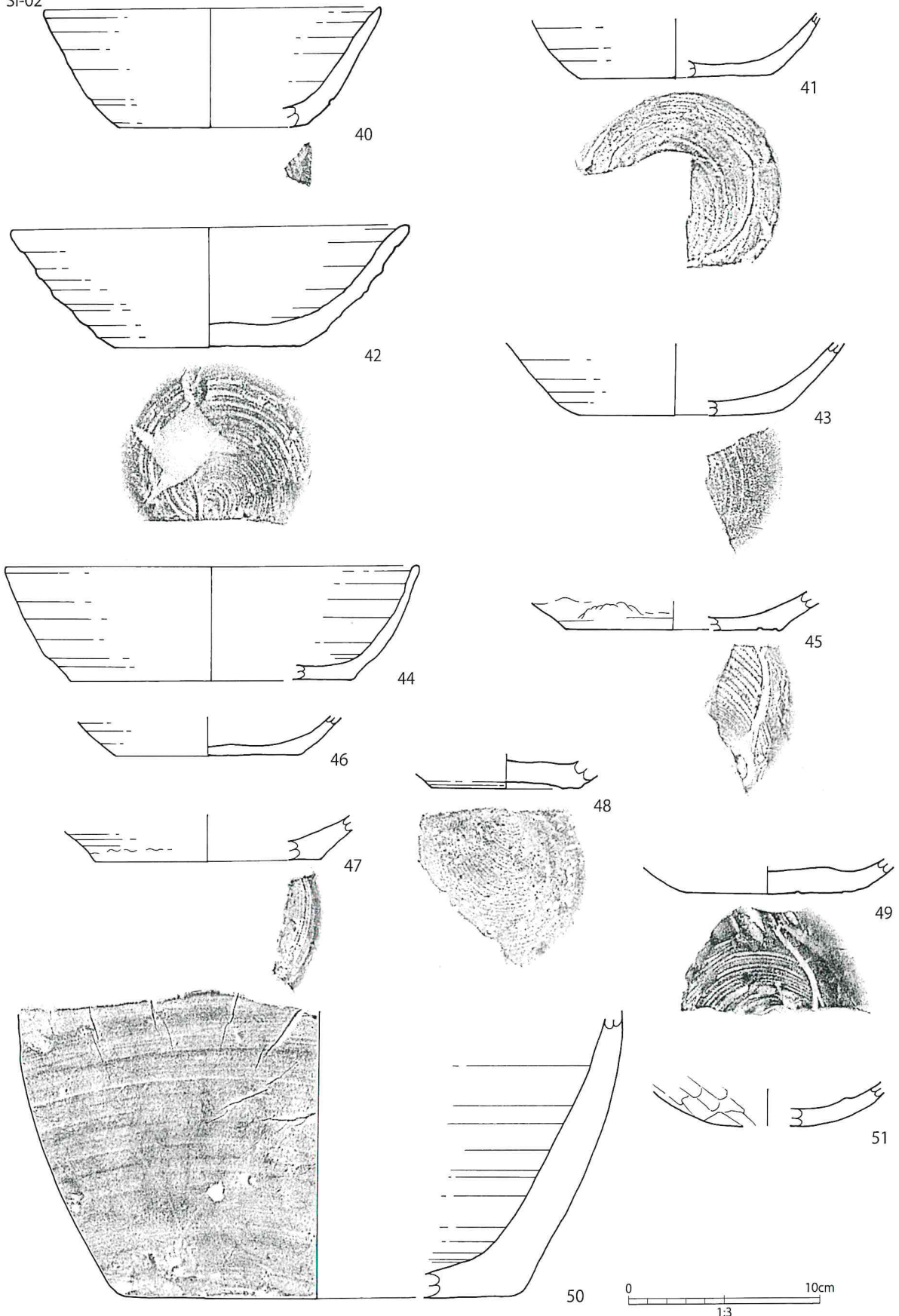


39

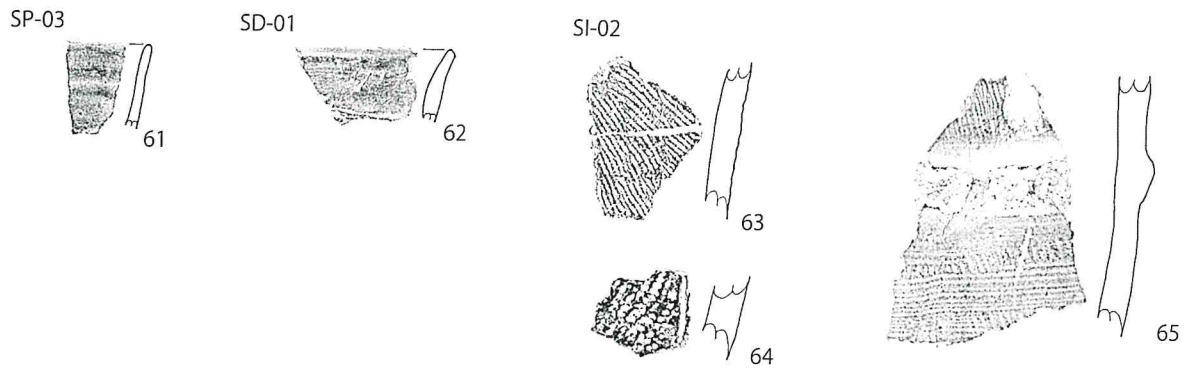
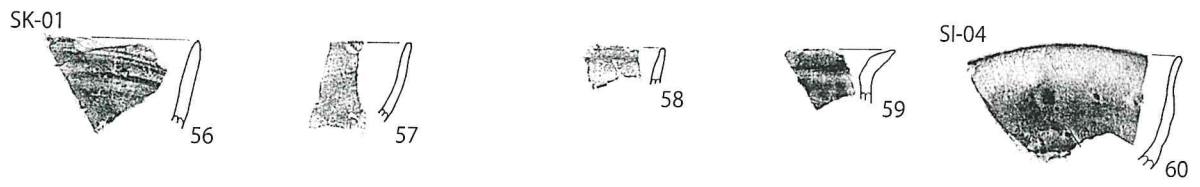


第13图 出土遗物(3)

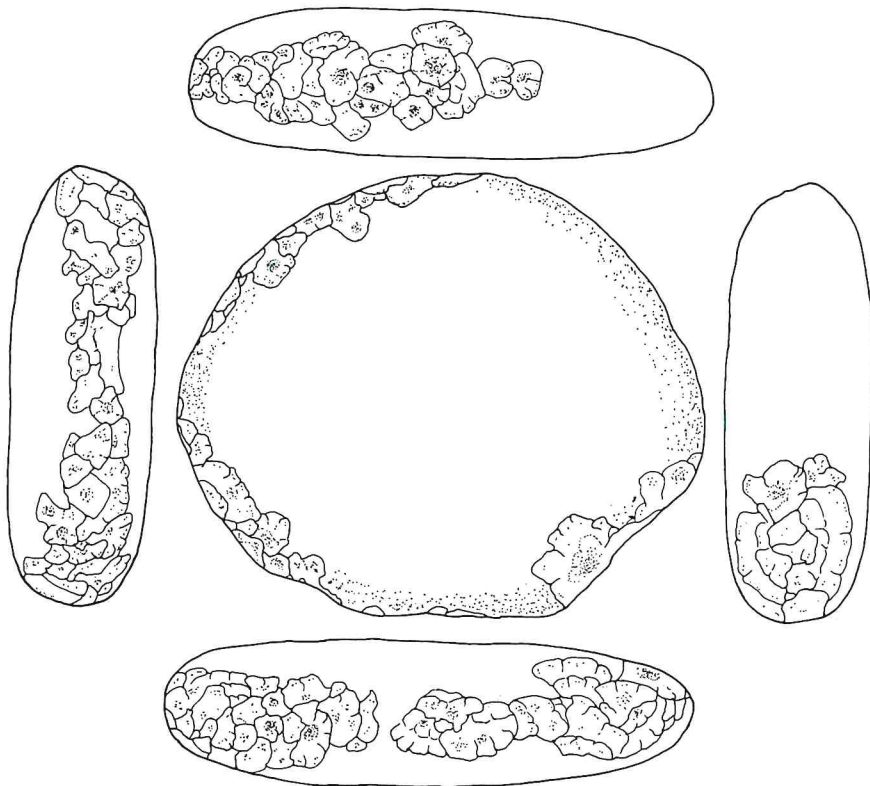
SI-02



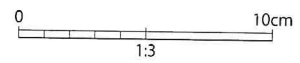
第14图 出土遗物(4)



SI-01

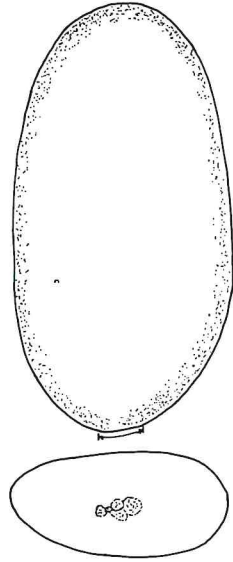


52



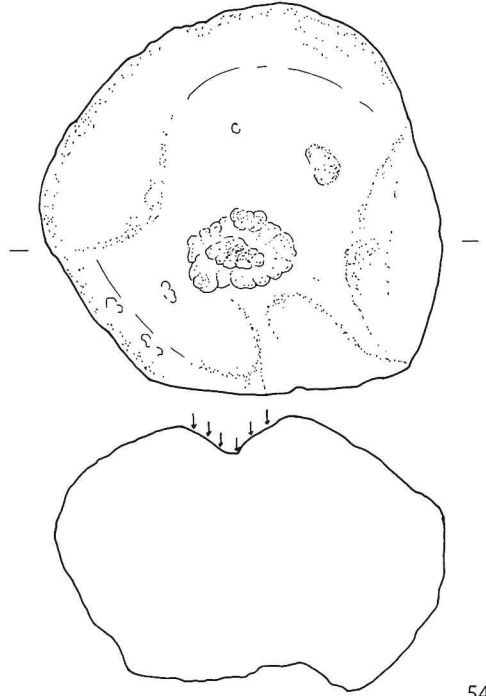
第 15 图 出土遺物 (5)

SI-02



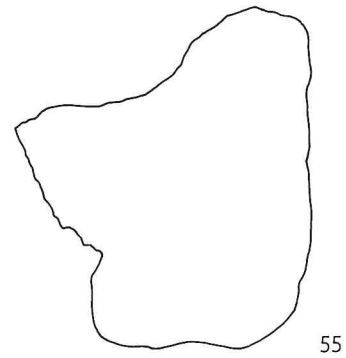
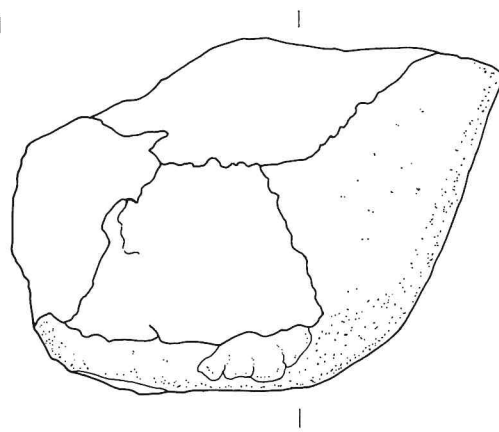
53

SI-04



54

SK-01



55



第 16 図 出土遺物 (6)

第4表 遺物観察表(1)

番号	出土遺構	器種	法量 (cm)			①焼成 ②色調 (内/外) ③胎土 ④残存	成形 (整形) 技法の特徴	備考
			口径	底径	器高			
1	SI-01	土師器 環	(12.3)	(8.1)	3.1	①酸化 ②明褐色/にぶい褐色 ③白色・黒色岩片 ④口縁部~底部1/2	外面 横方向のナデ 内面 横方向のナデ	
2	SI-01	土師器 環	(14.5)	(10.2)	3.3	①酸化 ②明褐色/にぶい褐色 ③白色・黒色岩片 ④口縁部~底部1/6	外面 横方向のナデ 内面 横方向のナデ	
3	SI-01	土師器 カメ	(14.9)	—	—	①酸化 ②黒褐色/暗褐色 ③角閃石・白色・黒色岩片 ④口縁部	外面 横方向のナデ 一部指頭痕 内面 横方向のナデ	内面にスス
4	SI-01	土師器 カメ	(17.2)	—	—	①酸化 ②にぶい赤褐色/にぶい赤褐色 ②白色・黒色岩片 ④口縁部~頸部	外面 横方向のナデ 内面 横方向のナデ	内面にスス
5	SI-01	土師器 環	—	—	—	①酸化 ②にぶい褐色/暗褐色 ②白色・黒色岩片 ④口縁部~やや底部	外面 横方向のナデ 内面 横方向のナデ	
6	SI-01	土師器 環	—	—	—	①酸化 ②にぶい褐色/にぶい褐色 ②白色・黒色・赤色岩片 ④口縁部	外面 横方向のナデ 内面 横方向のナデ 光沢 (ミガキ)	
7	SI-01	土師器 環	—	—	—	①酸化 ②明褐色/にぶい褐色 ③白色・黒色岩片 ④口縁部	外面 横方向のナデ 内面 横方向のナデ	
8	SI-01	須恵器 環	—	—	—	①還元 ②灰色/灰色 ③白色・黒色岩片 ④口縁部		
9	SI-01	須恵器 環	—	—	—	①還元 ②灰色/暗灰色 ③白色岩片 ④口縁部		
10	SI-01	須恵器 碗	—	—	—	①還元 ②灰白色/灰色 ③白色・黒色岩片 2mm大の礫 ④口縁部		
11	SI-01	土師器 ツボ	—	—	—	①酸化 ②赤褐色/にぶい褐色 ③白色・黒色岩片 ④口縁部	外面 横方向のナデ 内面 横方向のナデ	
12	SI-01	土師器 環	—	—	—	①酸化 ②にぶい黄褐色/にぶい黄褐色 ③白色・黒色・赤色岩片 ④口縁部	外面 横方向のナデ 内面 横方向のナデ	
13	SI-01	土師器 環	—	—	—	①酸化 ②にぶい褐色/にぶい暗褐色 ③白色・黒色岩片 ④口縁部	外面 横方向のナデ 内面 横方向のナデ	内・外面に少量のスス
14	SI-01	土師器 環	—	—	—	①酸化 ②にぶい黄褐色/にぶい黄褐色 ③白色・黒色・赤色岩片 ④口縁部	外面 横方向のナデ 内面 横方向のナデ	
15	SI-01	須恵器 環	—	—	—	①還元 ②暗灰色/暗灰色 ③白色・黒色岩片 ④口縁部		
16	SI-01	土師器 カメ	—	—	—	①酸化 ②赤褐色/にぶい赤褐色 ③白色・黒色岩片 ④胴部~底部1/6	外面 縦方向のナデ 内面 縦方向のナデ	外面に少量のスス
17	SI-01	須恵器 カメ	—	—	—	①還元 ②暗灰色/暗灰色 ③白色・黒色岩片 ④胴部		
18	SI-01	須恵器 皿	—	(6.5)	(1.7)	①還元 ②暗灰色/暗灰色 ③白色・黒色岩片 ④底部1/4	内面 横方向	
19	SI-01	須恵器 環	—	(7.9)	(1.5)	①還元 ②灰白色/灰白色 ③白色・黒色岩片 ④底部1/4	外面 ロクロ整形 糸切痕 内面 ロクロ整形	
20	SI-01	須恵器 環	—	—	—	①還元 ②暗灰色/暗灰色 ③白色・黒色岩片 ④底部	外面 ロクロ整形 糸切痕 内面 ロクロ整形	
21	SI-01	須恵器 高台付皿	—	(8.3)	(2.2)	①還元 ②灰白色/灰白色 ③白色・黒色・赤色岩片 ④底部1/2		
22	SI-03	須恵器 環	—	(6.5)	(1.5)	①還元 ②暗灰色/暗灰色 ③白色・黒色岩片 ④底部1/2	外面 ロクロ整形 糸切痕 内面 ロクロ整形	
23	SI-03	土師器 環	—	(6.6)	(1.4)	①酸化 ②にぶい褐色/黄灰色 ③白色・黒色・赤色岩片 ④底部	外面 ロクロ整形 糸切痕 内面 ロクロ整形	
24	SI-03	須恵器 高台付碗	—	(5.8)	(2.0)	①還元 ②暗灰色/暗灰色 ②白色・赤色岩片 ④底部		
25	SI-03	土師器 環	—	—	—	①酸化 ②にぶい褐色/にぶい褐色 ③白色・黒色・赤色岩片 ④胴部	外面 横方向のナデ 内面 横方向のナデ ヘラナデ	
26	SI-03	須恵器 羽釜	—	(16.4)	(6.3)	①還元 ②暗灰色/暗灰色 ③白色・黒色岩片 3.5mm大の礫混入 ④底部~胴部	外面 ロクロ整形 内面 ロクロ整形	
27	V層	土師器 環	(12.5)	(10.0)	3.0	①酸化 ②明褐色/明褐色 ③白色・黒色岩片 ④口縁部~底部2/3	外面 横方向のナデ 内面 横方向のナデ	
28	土器集中	須恵器 環	13.0	6.5	3.9	①還元 ②暗灰色/灰白色 ③白色・黒色岩片 ④口縁部~底部 ほぼ完形	外面 ロクロ整形 内面 ロクロ整形 糸切痕	
29	土器集中	土師器 カメ	—	—	(13.0)	①酸化 ②にぶい褐色/にぶい褐色 ③白色・黒色岩片 ④胴部	外面 やや斜め方向のナデ 内面 横方向のナデ	
30	SI-02	須恵器 (高台付)	(14.0)	(7.4)	4.5	①還元 ②灰色/灰色 ③白色・黒色岩片 ④口縁部~底部1/5	外面 ロクロ整形 内面 ロクロ整形	高台部分剥離
31	SI-02	須恵器 高台付皿	(12.2)	(6.0)	2.0	①還元 ②灰色/灰色 ③白色・黒色岩片 ④口縁部~底部1/3	外面 ロクロ整形 糸切痕 内面 ロクロ整形	
32	SI-02	須恵器 高台付碗	(16.2)	(7.2)	7.4	①還元 ②黄灰白色/黄灰白色 ③白色・黒色岩片 ④口縁部~底部1/2	外面 ロクロ整形 糸切痕 ヘラナデ 内面 ロクロ整形	
33	SI-02	須恵器 高台付碗	—	(6.2)	(3.8)	①還元 ②灰白色/灰白色 ③白色・黒色岩片 ④胴部~底部	外面 ロクロ整形 糸切痕 内面 ロクロ整形	
34	SI-02	須恵器 高台付碗	—	7.1	(4.1)	①還元 ②暗灰色/暗灰色 ③白色・黒色岩片 ④胴部~底部	外面 ロクロ整形 ヘラナデ 糸切痕 内面 ロクロ整形	
35	SI-02	須恵器 高台付皿	—	(7.2)	(1.3)	①還元 ②黒色 (一部) 灰白色/黒色 ③白色・黒色岩片 ④ほぼ底部	外面 ロクロ整形 糸切痕 内面 ロクロ整形	
36	SI-02	須恵器 高台付皿	—	7.0	(1.5)	①還元 ②灰色/灰色 ③白色・黒色岩片 ④ほぼ底部	外面 ロクロ整形 糸切痕 内面 ロクロ整形	

第5表 遺物観察表(2)

番号	出土遺構	器種	法量 (cm)			①焼成 ②色調 (内/外) ③胎土 ④残存	成形 (整形) 技法の特徴	備考
			口径	底径	器高			
37	SI-02	土師器 (高台付)	—	(4.7)	(3.0)	①酸化 ②にぶい赤褐色/赤褐色 ③白色・黒色・赤色岩片 ④胴部~底部	外面 横方向のナデ 内面 横方向のナデ	高台部分剥離
38	SI-02	土師器 高台付皿	—	(6.6)	(1.9)	①酸化 ②暗褐色/にぶい褐色 ③白色・黒色・赤色岩片 ④ほぼ底部	外面 横方向にナデ 内面 縦方向にナデ	ミガキ (光沢)
39	SI-02	土師器 高台付皿	—	(8.2)	(1.8)	①酸化 ②黒色/黄褐色 ③白色・黒色岩片 ④ほぼ底部	外面 横方向にナデ 内面 横方向にナデ	内黒
40	SI-02	須恵器 環	(11.7)	(6.2)	4.2	①還元 ②灰色/灰色 ③白色・黒色岩片 ④口縁部~底部1/10	外面 ロクロ整形 内面 ロクロ整形	底部直上に沈線1条
41	SI-02	須恵器 環	—	(6.7)	(2.1)	①還元 ②灰白色/灰白色 ③白色・黒色岩片 ④胴部~底部	外面 ロクロ整形 内面 ロクロ整形	糸切痕
42	SI-02	須恵器 環	(13.8)	(6.5)	4.1	①還元 ②灰白色/灰白色 ③白色・黒色岩片 ④口縁部~底部	外面 ロクロ整形 内面 ロクロ整形	糸切痕 錆付着
43	SI-02	須恵器 環	—	(6.5)	(2.5)	①還元 ②灰白色/灰白色 ③白色・黒色岩片 ④胴部~底部	外面 ロクロ整形 内面 ロクロ整形	糸切痕
44	SI-02	須恵器 環	(14.3)	(9.8)	4.0	①還元 ②暗灰色/暗灰色 ③白色・黒色岩片 ④口縁部~底部	外面 ロクロ整形 内面 ロクロ整形	糸切痕
45	SI-02	須恵器 環	—	(7.5)	(1.0)	①還元 ②灰色/灰色 ③白色・黒色岩片 ④胴部~底部	外面 ロクロ整形 内面 ロクロ整形	糸切痕 底部に沈線1条
46	SI-02	須恵器 環	—	(6.4)	(1.3)	①還元 ②底色/白色 ③白色・黒色岩片 ④胴部~底部	外面 ロクロ整形 内面 ロクロ整形	糸切痕 内黒
47	SI-02	須恵器 環	—	(7.8)	(1.6)	①還元 ②灰白色/灰白色 ③白色・黒色岩片 ④胴部~底部	外面 ロクロ整形 内面 ロクロ整形	糸切痕 内面にスス
48	SI-02	須恵器 環	—	(5.1)	(1.2)	①還元 ②灰色/灰色 ③白色・黒色岩片 ④ほぼ底部	外面 ロクロ整形 内面 ロクロ整形	糸切痕 錆付着
49	SI-02	須恵器 環	—	(5.4)	(1.0)	①還元 ②黄白色/灰白色 ③白色・黒色・赤色岩片 ④ほぼ底部	外面 ロクロ整形 内面 ロクロ整形	糸切痕
50	SI-02	須恵器 羽釜	—	(13.5)	(10.0)	①還元 ②灰色/灰色 ③白色・黒色岩片 ④胴部~底部	外面 ロクロ整形 内面 ロクロ整形	糸切痕
51	SI-02	土師器 環	—	(3.0)	(1.3)	①酸化 ②にぶい褐色/褐色 ③白色・黒色岩片 ④胴部~底部	外面 やや斜め方向にナデ 内面 縦方向にナデ	内・外面スス付着
56	SK-01	土師器 環	—	—	—	①酸化 ②黄褐色/黄褐色 ③白色・黒色岩片 ④口縁部	外面 横方向のナデ 内面 横方向のナデ	
57	SK-01	土師器 環	—	—	—	①酸化 ②褐色/褐色 ③白色・黒色岩片 ④口縁部	外面 横方向のナデ 内面 横方向のナデ	
58	SK-01	土師器 環	—	—	—	①酸化 ②にぶい褐色/褐色 ③白色・黒色岩片 ④口縁部	外面 横方向のナデ 内面 横方向のナデ	
59	SK-01	土師器 脚付カメ	—	—	—	①酸化 ②赤褐色/赤褐色 ③白色・黒色・赤色岩片 ④高台部分	外面 横方向のナデ 内面 横方向のナデ	
60	SI-04	須恵器 環	—	—	—	①還元 ②灰白色/灰白色 ③白色・黒色岩片 ④口縁部	外面 ロクロ整形 内面 ロクロ整形	
61	SP-03	土師器 環	—	—	—	①酸化 ②黄褐色/黄褐色 ③白色・黒色岩片 ④口縁部	外面 横方向のナデ 内面 横方向のナデ	
62	SD-01	土師器 カメ	—	—	—	①酸化 ②黄褐色/黄褐色 ③白色・黒色岩片 ④口縁部	外面 横方向のナデ 内面 横方向のナデ	
63	SI-02	縄文 深鉢	—	—	—	①普通 ②黄褐色/褐色 ③砂礫混入 ④胴部	内面 縦方向のナデ	
64	SI-02	縄文 深鉢	—	—	—	①普通 ②黄褐色/赤褐色 ③砂礫混入 ④胴部	内面 縦方向のナデ	
65	SI-02	埴輪 円筒	—	—	—	①普通 ②明褐色/明褐色 ③白色・黒色岩片 ④胴部	外面 縦方向のナデ 内面 横方向のナデ	